



力量ある教員を育む大学院

豊かな人間性・社会性を備えた

高度な専門性と



令和6年度 岩手大学教職大学院

大学院教育学研究科

教職実践専攻(専門職学位課程)

2024



スクールリーダーと 即戦力の新人教員を養成します

岩手大学大学院教育学研究科長 柴垣 登



岩手大学大学院教育学研究科(教職大学院)は平成28年4月に発足し、令和6年3月には、7期生12名が修了しました。この間の修了生は110名を超え、本学における理論と実践の融合を目指した学びによって修得した力量を発揮し、各学校及び教育行政の最前線で活躍しています。

本教職大学院の現職院生は、岩手県教育委員会から派遣され、2年間の大学院での学びを経て、修了後は学校の管理職やミドルリーダー、あるいは教育委員会の指導主事等として本県教育をけん引することを期待されています。その期待に応え、修了生の多くが管理職やミドルリーダー、あるいは教育委員会の指導主事等として活躍しています。また、学卒院生は修了後、新しい学校づくりの有力な担い手となる、より高度な実践力を備えた新人教員として活躍することが期待されており、修了生の多くが岩手県内の小中学校や高等学校、特別支援学校等の第一線で活躍しています。

それらの期待に応えるために、本教職大学院では、専攻共通科目を中心とする学修カリキュラムのほか、「専門実習」、「教育実践リフレクション」、「教職実践研究」をカリキュラムに位置づけ、教育現場の課題解決に資する実践的なフィールドでの研究を行っているのが大きな特色です。

研究スペースである院生室は、各自に専用机が配置され、学年や校種を超え、現職院生・学卒院生ともに、大学院の授業や専門実習および個人研究を補完する学び合いやOJTの場ともなっています。さらに、学卒院生に対する独自の奨学金貸与制度も完備しています。

本教職大学院は、岩手県教育委員会および盛岡市内を中心とする各学校等との連携・協力の下に、これからの学校教育の充実・発展に大きく貢献できる高い力量を備えた教員の育成に努めていきます。

専門的・実践的力量を備えた 教員養成を

岩手県教育委員会教育長 佐藤 一男



今年度、県教育委員会から岩手大学教職大学院への派遣研修は9年目を迎えます。令和5年度の修了生(第7期生)12名を含め、これまでに110名以上の皆さんがそれぞれの勤務地において、学修の成果を大いに発揮しています。

第7期生の現職教員の皆さんは、副校長や指導主事等として、この4月から新たなスタートを切って活躍しています。学卒院生の皆さんも、各地区の中核となる小中学校や県立学校等において、2年間の専門的な学びを生かし、意欲的に実践しています。

県教育委員会では、今般、今後5年間の教育施策の方向性等を示した「岩手県教育振興計画(2024~2028)」を策定しました。「学びの基盤づくり」において、教育への情熱と高い志を持つ有為な人材の確保・育成及び資質向上を掲げ、教員の専門性の向上を図るため、教職大学院と連携しながら有為な人材の育成に取り組んでいます。教職大学院における理論と実践の融合を図った研究は、岩手の教育の充実に結びついていくものと確信しています。

高度な専門的・実践的力量を備えた教員の養成及び中核的・指導的な役割を果たすことができる管理職やミドルリーダー教員の資質能力の向上を図るため、引き続き、多様な人材の派遣に努めるとともに、実務家教員の人事交流や、専門実習等学修環境のサポートなど、教職大学院との一層の連携・協働を図って参ります。



教職大学院とは?

本学では「教育学研究科教職実践専攻」が教職大学院です。

教職大学院は、近年、学校教育の課題が多様化、複雑化する状況の中で、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての教員養成に特化した専門職大学院です。これまでの教育系大学院(修士課程)との違いは、専門実習、模擬授業、事例研究など実践的な教育内容が充実し、理論と実践を融合したカリキュラムとなっているところです。

- 教育学研究科(教職実践専攻)の入学定員等
入学定員 16名(うち、岩手県教育委員会から派遣される現職教員は8名)
- 学位名称、標準修了年限等
標準修了年限は2年で、修了者には教職修士(専門職)の学位が授与されます。また、教育職員一種免許状の保持者には専修免許状が授与されます。

人材養成像

学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げて、教職としての高度な専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成します。

具体的には、学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダー教員を養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成します。

>> 院生インタビュー



学校マネジメント力開発プログラム

現職院生 佐藤 綾



子ども達と過ごす毎日に一生懸命だった生活を離れ、今までの教育実践や今求められる今日的な教育課題について考えたり学び直したりする機会をいただいています。大学院の仲間や先生方と共に考え議論する学修を通して、刺激を受けながらいろいろな見方や考え方に触れています。学卒院生と現職院生が共に学び過ごすことができる教職大学院は、自分自身をよりパワーアップさせられる場所です。この学びを教育現場での実践に生かせるよう、さらに研究と修養に努めます。

子ども支援力開発プログラム

現職院生 甘竹 浩枝



これからの子ども理解はどうあればよいのか、その子ども理解に裏打ちされた支援とはどうあればよいのか、経験知に偏っていた自分の考え方を一つ一つ問い直しながら、日々学修を重ねています。異校種・異世代の仲間との学び合いは、時間に余白が生まれるような豊かな感覚をもたらしてくれます。大学院の目指す理論と実践の融合だけでなく、仲間との関わりによって感性をも磨き、子ども達の学びに還元できるよう励んでいきます。

授業力開発プログラム

現職院生 橋本 淳史



教職大学院で学ぶ理論と自己の経験や連携協力校での実践を往還させ、学修、省察に努めています。新たな時代の持続可能な社会の創り手の育成を見据えた時、自己の成功体験という認識の「自信」を批判的に省察しなければならない場面に出会います。今自分は、変化を受け止め、多様な他者と協働しながら新たに創造する「勇気」が求められていると実感しています。継続的な学びを通し、令和を生きる子ども達に最適な授業づくりを探究していきます。

授業力開発プログラム

学卒院生 川島 真子



私の教職大学院への入学動機は、現職の先生と共に学べることにとても魅力を感じたからです。実際1年間過ごして、自分が思っていた以上の学びがありました。専門性の高い教授の方々、経験豊富な現職院生、研究だけでなくいろいろなことに積極的に学ぶ学卒院生、こうした様々な校種・世代の人たちとの話が、自分の考えを広げてくれました。最終年度となる今年度は、教壇に立つ自分をイメージしながら、今すべきことは何かを常に考え、自分から行動する1年にしていきたいと思っています。

授業力開発プログラム

学卒院生 宮崎 烈



入学時は自分の意見を口に出し、積極的に議論しながら考えを深めていくことが苦手でした。しかし、志の高い学卒院生や経験豊富な現職院生と日々切磋琢磨していく中で、自分の考えが磨かれていくのを感じ、教員として現場に立つ時に必ず自分を助けてくれる知識や経験を得ることができています。今年度は教育現場で働く姿をより一層イメージし、子ども達に良い教育を提供するための理論をさらに学び、実践を通して深めていきます。

授業力開発プログラム

学卒院生 田中 秀幸



教職大学院は、理論と実践を結びつけることに重点を置いたカリキュラムであり、教育についての基礎的な知識を深めると同時に、実践的な経験を積むことができる場所です。この1年は、指導教員や現職院生からのフィードバックやサポートを受けながら、教育について深めることができました。また、教職大学院では様々な校種や教科の院生がいるため、それぞれの違いを生かし学ぶことを通じて、視野を広げることができました。これからも、理論と実践の往還を通して、学びを深めていきたいと考えています。

特別支援教育力開発プログラム

現職院生 山根基義



私は、大学院で、これまでの実践を振り返り、知識や理論を学び、実践へ結び付けるという学修の機会をいただいています。また、校種や教科、世代の異なる学びの機会において意見を交流することで、これまで実践してきた特別支援教育について、改めて考えることができました。今後も、理論と実践の融合を一層追究し、学んだことを学校へ還元できるよう努めていきたいと思っています。

特別支援教育力開発プログラム

学卒院生 中村 偉織



私が実習する特別支援学校では、子どもの様子が日々変化します。それについて、適切に見取りながら、課題解決に向けてどのように取り組んでいくかを考えた1年でした。そこでは、課題解決の方法を考え、試行し、評価するという一連のプロセスを経験しました。それができると、教職大学院の魅力です。それが「学び続ける教師」としての資質能力を高めることにもつながると思っています。学び得たことを岩手の教育に還元できるよう、これからも学び続けていきたいです。

≫ カリキュラムについて

≫ 3つのプログラム制

学修ニーズに応じて以下のプログラムを選択します。

1 学校マネジメント力開発プログラム
(現職院生のみ対象)

学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量的修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、主幹教諭及び指導主事等)を育成する。

2 授業力開発プログラム

子どもの生活上・発達上の諸課題の把握とその適切な支援の見通しのもとに、子どもに確かな学力を形成し、地域における授業改善のリーダーとしての役割を果たすことができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

3 特別支援教育力開発プログラム

特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

専攻共通科目(必修)

- ①特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- ②学習指導要領とカリキュラム開発
- ③ICT活用教育の実践と課題
- ④学校経営・学級経営の実践と課題
- ⑤心理教育的援助サービスの理論と実践
- ⑥通常学級における特別支援教育の実践と課題
- ⑦いわての復興教育の実践と課題
- ⑧専門職としての教員の在り方とその力量形成
- ⑨授業づくりの理論と実践
- ⑩教科の指導と評価の実践研究

選択科目

- ①教育のデータリテラシー
 - ②学校カウンセリングの理論と実践
 - ③学習支援のための教育心理学
 - ④学校マネジメントの理論と実践
 - ⑤教職員の職能成長に資する学校経営の実践と課題
 - ⑥小学校教科の実践と課題
 - ⑦算数・数学科教育の実践と課題
 - ⑧生活科・総合学習の実践と課題
 - ⑨特別支援心理教育アセスメント
 - ⑩特別支援教育におけるキャリア教育
- など全30科目

実習科目(必修)

学卒院生は、学部段階の基礎的・基本的な教育実習を踏まえ、現職院生は、教職経験を踏まえ、教科等の学習指導、生徒指導や学級・学校経営に関する高度で実践的な指導力の育成を目的とし、連携協力校、教育委員会、総合教育センター等で実習を行います。

リフレクション科目(必修)

理論的な学びと、実践的な学びを往還させながら、院生が自らの学びや成長に価値を見出す省察を行い、教育課題の解決に資する実践的力量的を高めます。

教育実践研究科目(必修)

院生個人が、学校現場に貢献する教育実践のテーマを定め、その実践を理論的に検討し、教育実践研究報告書としてまとめます。なお、この成果は、半期ごとの教育実践研究中間発表会並びに修了前の発表会等で発表します。

≫ 履修スケジュール

ここで示している時間割や履修スケジュール等の詳細については、変更調整されることがあります。



		1 年 次											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学卒院生の場合	専攻共通科目												
	プログラム別選択科目												
	実習科目(授業力・子ども支援力/特別支援教育力)												
	リフレクション科目												
	教育実践研究科目												
現職院生の場合	専攻共通科目												
	プログラム別選択科目												
	実習科目(学校マネジメント力・授業力・子ども支援力/特別支援教育力)												
	リフレクション科目												
	教育実践研究科目												



時間割例(授業力開発プログラム選択・学卒院生の場合)

専攻共通科目 選択科目 実習科目 リフレクション科目 教育実践研究科目

[1年次前期] 学修導入期・研究課題設定期

曜日	1	2	3	4
月	学習支援のための教育心理学	授業づくりの理論と実践		特色あるカリキュラムづくりの理論と実践
火	専門職としての教員の在り方とその力量形成	算数・数学科教育の実践と課題		教育実践研究基礎論
水	いわての復興教育の実践と課題			心理教育的援助サービスの理論と実践
木	専門実習(授業力・子ども支援力開発実習)			
金	教育実践リフレクションI		教育実践研究	

[1年次後期] 学修展開期・研究課題探究期

曜日	1	2	3	4
月	通常学級における特別支援教育の実践と課題	ICT活用教育の実践と課題		教科の指導と評価の実践研究
火	学習指導要領とカリキュラム開発			
水	学校経営・学級経営の実感と課題	英語科教育の実践と課題		
木	専門実習(授業力・子ども支援力開発実習)			
金	教育実践リフレクションII		教育実践研究	

[2年次前期] 学修深化期・研究課題深化期

曜日	1	2	3	4
月	小学校教科の実践と課題			
火				
水				
木	専門実習(授業力・子ども支援力開発実習)			
金		教育実践リフレクションIII	教育実践研究	

履修の工夫によって、教育実践研究を含む自己の課題解決のために実習校に出向くなどの時間を確保することができます。

[2年次後期] 学修完結期・研究課題総括期

曜日	1	2	3	4
月				
火				
水				
木	専門実習(授業力・子ども支援力開発実習)			
金		教育実践リフレクションIV	教育実践研究	

履修の工夫によって、授業を4期に分散することもできます。

岩手大学教職大学院 修了要件単位表	専攻共通科目 (必修)	選択科目 (プログラム別選択 4単位を含む)	実習科目 (必修)	リフレクション科目 (必修)	実践研究科目 (必修)	計
	20	8	10	4	4	46

● 選択したプログラムと、履修する実習科目の対応

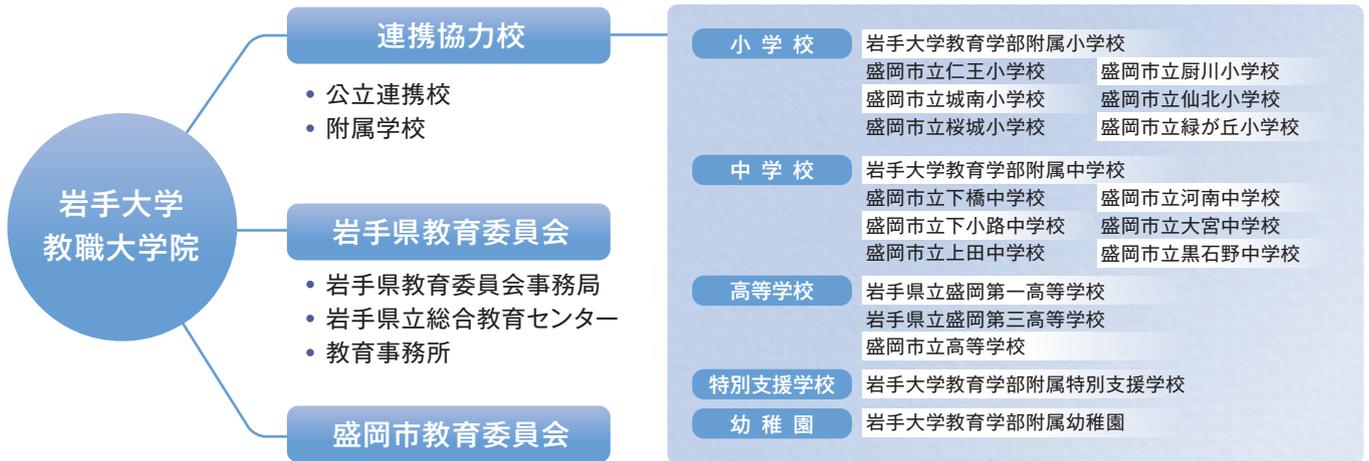
プログラム	現職・学卒の別	履修する実習科目			
		学校マネジメント力 開発実習	授業力 開発実習	子ども支援力 開発実習	特別支援教育力 開発実習A/B
学校マネジメント力開発プログラム	現職院生	○	○	○	
授業力開発プログラム	現職院生	○	○	○	
	学卒院生		○	○	
特別支援教育力開発プログラム	現職院生	○			○(B)
	学卒院生				○(A)

○=履修

2年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻共通科目					専攻共通科目						
プログラム別選択科目					プログラム別選択科目						
実習科目(授業力・子ども支援力/特別支援教育力)					実習科目(授業力・子ども支援力/特別支援教育力)						
リフレクション科目					教育実践研究 中間発表会	リフレクション科目					教育実践研究 発表会
教育実践研究科目					教育実践研究 中間発表会	教育実践研究科目					教育実践研究 発表会

>> 専門実習について



学校マネジメント力開発実習では、
どんなことをするの？



学校経営や教育行政にかかわる実際的な業務内容を実習します。学卒院生は、連携協力校での校務分掌を実習内容に含みます。現職院生は、教育委員会や教育センターでの事務局業務や研修の運営業務などを実習内容に含みます。



授業力・子ども支援力開発実習では、
どんなことをするの？



授業づくりを実習します。単元計画の立案、実践、評価を行う中で、子どもの生活上・発達上の実態に配慮しつつ、有効な指導方法を開発、検証します。



特別支援教育力開発実習では、
どんなことをするの？



特別支援学校における授業づくりはもちろんのこと、教科指導以外の教育活動、通常学級への巡回相談等を実習します。その中で、具体的かつ有効な支援方法を開発、検証します。



また、教科指導以外の教育活動（学級経営、進路指導、教育相談等）を実習します。児童生徒の状態を把握し、その課題解決を目指した具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。

>> 教育実践研究テーマの例

学校マネジメント力開発プログラム

- 小学校小規模校における教員の協働的な学びをいかした研修活性化の在り方
- 教職員集団の協働に基づく若手教員の育成—生徒会執行部への指導に着目して—
- 高等学校における生徒の社会参画に対する意識を高める、教員の実践力の形成についての研究

子ども支援力開発プログラム

- 認知の再構成プログラムの開発

授業力開発プログラム

- 小学校算数科における主体的な学びを促す授業づくりの研究—形成的フィードバックに着目して—
- 小学校道徳科授業における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実とは—「聴く」という行為に着目して—
- 中学校保健体育科における共生の視点を重視した授業が学習者の心理に与える影響—アダプテーション・ゲームを活用した授業実践—

特別支援教育力開発プログラム

- 通常の学校に設置された特別支援学校分教室と併設校との交流及び共同学習の実施手順及び要領

修了生の動向

修了生インタビュー



花巻市立大迫中学校 副校長 小野 靖子

4月から花巻市立大迫中学校に勤務しております。木材の温かみ溢れる明るい校舎で、「チーム大迫」の一員となり働く喜びを実感する毎日です。教職大学院では、講義や実習、研究を通して、児童生徒・教職員、学校、そして教育に関するあらゆる分野の専門的な知識と現状及び課題に向き合うことができました。そして、異校種・異年齢と共に学修できたことで、中学校現場で得てきた経験に新鮮な視点を見出すことができ、学び続ける大切さを実感しました。「理論と実践の往還」を目指す日々でしたが、学校現場に戻ってからは、日々「実践と理論の融合」が試されていることを体感します。「完成形」を生み出そうとせず、学校や地域と一緒に試行錯誤しながら創造することを大切に、子ども達の環境を豊かにできるよう力を尽くしていきたいと思っております。



大船渡市立盛小学校 教諭 志和 孝洋

4月から24年間過ごした盛岡を離れ、大船渡の地で充実した日々を送っています。大学院で学んだ「学び続ける姿勢」と「振り返りの充実」を軸に、教師として、人として前向きに取り組んでいます。大学院時代に多くの人と出会い、様々なコミュニティを形成したことは、今でも私の心と学びの支えとなっています。また、配属校の先生方にたくさん頼り、学校や児童、地域のことも多くの学びを得ています。大学院で培った人間関係づくりやコミュニケーション力は現場で自分を助けてくれています。正直、担任になってからの毎日は上手いかないことの連続です。授業も生徒指導も…。しかし、自己内リフレクションを欠かさずに行うことで、上手いかないことも自分の学びとして次に繋げ、毎日ポジティブな気持ちで子ども達と関わることが出来ます。子ども達と一緒に学び成長すること、子どもの些細な変化に気づけることが私の喜びです。これからも初心を忘れずに学び続けていきます。



岩手県立総合教育センター 研修指導主事 芦澤 信吾

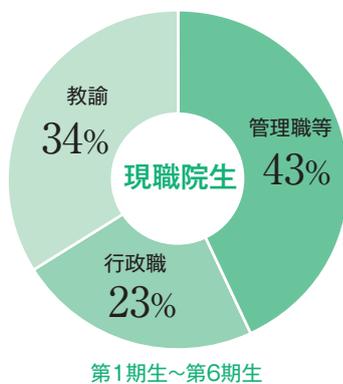
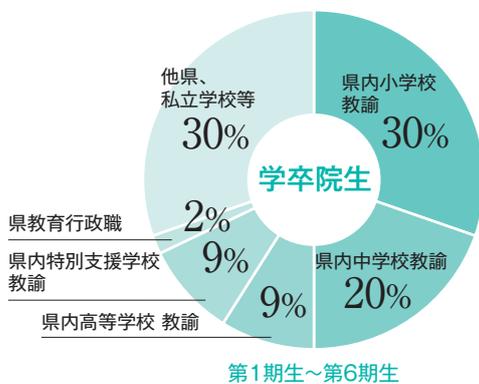
教育センターは市町村教育委員会や関係機関と連携しながら、先生方や学校のニーズに応える研修・支援・研究を行う機関です。私は情報・産業教育担当室に配属され、主にICT関連の研修を担当しています。学校を離れ、子ども達と学習する機会は減りましたが、研修に来られた先生が教師としての資質・能力を高め、それを日々の授業に生かすことが子ども達一人一人の笑顔につながることを信じてがんばっております。学校とは異なる業務内容に戸惑うこともありますが、教職大学院での授業や実習を通して得た知識と経験は、現在の業務に確実に活かされていることを実感しています。また、教職大学院の仲間との交流から得た多様な視点は、日々の課題解決の糧となっています。これからも先生方に有意義な学びの場を提供するために、自身も成長できるよう精進します。みなさん、これからも子ども達の笑顔の為に共にがんばりましょう！



盛岡市立向中野小学校 教諭 高橋 瑞輝

4月から、盛岡市立向中野小学校に勤務しており、充実した日々を送っております。まだ教員生活が始まって1ヶ月も経っておりませんが、授業実践のための教材研究、突発的に起きる生徒指導対応、日々の学級経営等様々な場面で大学院の学びが大いに役立っています。多忙な学校現場ですから、大学院で当たり前に行われていた「教材研究」や「子ども支援」に対する対話等に対し、あまり長い時間をかけることはできません。そのため、様々なことに対して広く深く長い時間をかけて学ぶことのできた大学院生活はとても貴重な時間であったと振り返っています。これからも目の前の子ども達一人一人に向き合っていけるよう、心と身体を大切にしながら努力していきます。

修了生進路 (令和6年4月現在)



学卒院生

第7期生

- 盛岡市立向中野小学校教諭
- 大船渡市立盛小学校教諭
- 山形県遊佐町立遊佐小学校教諭
- 二戸市立福岡中学校教諭
- 岩手県立久慈拓陽支援学校教諭

現職院生

第7期生

- 二戸市立浄法寺小学校副校長
- 花巻市立大迫中学校副校長
- 岩手県教育委員会経営指導主事
- 岩手県立総合教育センター研修指導主事
- 一戸町立奥中山小学校副校長
- 宮古教育事務所主任指導主事
- 岩手県教育委員会経営指導主事

在籍者数

(令和6年4月現在)

入学年度	プログラム	学卒院生	現職院生	合計
令和5年度	学校マネジメント力開発	3	3	3
	授業力開発	7	3	10
	子ども支援力開発*	0	1	1
	特別支援教育力開発	1	1	2
	小計	8	8	16
令和6年度	学校マネジメント力開発	3	3	3
	授業力開発	4	4	8
	特別支援教育力開発	2	1	3
	小計	6	8	14
	合計	14	16	30

*令和5年度までの旧カリキュラムの内容

専任教員

(令和6年4月現在)

研究者教員

柴垣 登
中村 好則
山本 奨
小川 春美
佐合 智弘
佐々木 全
高田 麻美
山路 茜

実務家教員

田村 忠
佐藤 信
紺野 好弘
菅野 亨
須川 和紀
柏 英保
菊池 新司

学修支援Q&A

Q1 どのような施設で学修するのですか？

教職大学院棟という教職大学院専用の施設があります。この中の「院生室」では、一人一台のパソコンが貸与、無線LANが完備されています。「演習室」では、電子黒板等のICT機器が配備され、いつでも活用できます。

Q2 教員採用試験での特例措置とは、どのようなものですか？

岩手県の教員採用試験に合格した上で、教職大学院に進学した学卒院生は、大学院修了までの期間、名簿記載期間を延長することができます(最大2年間)。なお、合格した出願区分の学校・教科等の専修免許を取得することが条件です。

Q3 奨学金制度はありますか？

学卒院生を対象とした本教職大学院独自の貸与制度があります。貸与額は、月額3万円または5万円を無条件で選択できます。修了後には、自身で無理のない返済計画書を作成し修了後5年以内に返還します。

Q4 授業の特色にはどのようなことがありますか？

「理論と実践の融合」を目指し、理論面を研究者教員が、実践面を実務家教員がそれぞれ担当します。多くの授業は、研究者教員と実務家教員のチーム・ティーチングで、演習を重視して実施します。また、授業や専門実習では、現職院生と学卒院生が協働・交流し、学び合います。

Q5 どのような指導体制ですか？

各プログラムを専門とする研究者教員8名と、小・中・高・特支学校の校長等の実務経験のある実務家教員7名が中心となり指導します。また、これに加えて教育学部所属の20名をこえる研究者教員が学修をサポートします。

Q6 教育実践研究報告書とは何ですか？

院生個人が、学校現場に貢献する教育実践のテーマを定め、その実践を理論的に検討し、その内容をまとめたものが教育実践研究報告書です。その内容に応じて、研究者教員と実務家教員がチームでサポートします。

Q7 学卒院生が修了後に教員になったとき、初任者研修はどうなりますか？

岩手県内の公立学校では、教職大学院での学修内容が考慮されるため、校内の初任者研修150時間が、75時間に軽減されます。

Q8 学卒院生が修了後に教員になったとき、初任給はどうなりますか？

「教職修士(専門職)」に対する優遇がなされています。具体的には、岩手県採用の初任給は、学部卒業者が232,860円ですが、大学院・教職大学院修了者は、252,604円です。(令和7年度岩手県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項による)

Q9 修了後、教職大学院とのかかわりはありますか？

教職大学院の同窓会があり、親睦を深めたり実践研究を交流したりします。また、教職大学院と連携・協働して、教育実践研究や職務に取り組む修了生もいます。

教職大学院棟



交通案内(盛岡駅から)

■ バス利用

盛岡駅前東口バスターミナル11番のりば

岩手県交通バス 駅上田線
乗車-「松園バスターミナル行き」
下車-「岩手大前」

岩手県交通バス 駅桜台団地線
乗車-「桜台団地行き」
下車-「岩手大前」

■ タクシー利用 盛岡駅から約2km 約10分

■ 徒歩 盛岡駅から約25分



岩手大学 教職大学院



〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号
TEL.019-621-6840 FAX.019-621-6841
E-mail emaster@iwate-u.ac.jp
URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学 教育学部

TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edu jim@iwate-u.ac.jp



この冊子は環境に配慮した用紙を使用しています。